

原発性肺癌切除例における Spread Through Air Spaces と臨床病理学的因子との関連の検討

京都府立医科大学附属病院で原発性肺癌に対する手術を受けられる患者様・ご家族の皆様へ

原発性肺癌患者の予後に関する調査へのご協力をお願い

今回、京都府立医科大学呼吸器外科では、原発性肺癌患者の予後に関する研究「原発性肺癌切除例における Spread Through Air Spaces (STAS)と臨床病理学的因子との関連の検討」を実施いたします。STAS とは、腫瘍本体と連続性を持たずに腫瘍周辺の気腔に進展した腫瘍細胞を指す言葉です。そのため、京都府立医科大学附属病院で原発性肺癌に対する手術を受けられた、あるいはこれから受けられる患者様の診療録を調査させていただきたいと考えています。

実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

研究の目的

本研究は、原発性肺癌に対する手術を受けられた方の手術後の局所再発および生存期間に影響を及ぼす可能性のある因子を明らかにし、より安全で効果的な治療および経過観察を行い、患者さんの予後改善につなげることを目的としています。

研究の方法

・対象となる方について

2009年1月1日以降に京都府立医科大学呼吸器外科で原発性肺癌に対する手術を受けられた患者様が対象となります。

研究期間： 医学倫理審査委員会承認後から2023年3月31日

・方法

2009年1月1日以降に京都府立医科大学呼吸器外科で原発性肺癌の手術を受けられた患者様が対象となります。本研究は過去の記録を用いる研究ですので、参加者となる皆様に新たな検査負担や危険が及ぶことはありません。記録から得られたさまざまな所見と手術後の経過を解析します。

・研究に用いる資料・情報について

情報：病歴、検査歴、手術歴、病理所見 等

・個人情報の取扱について

手術時に情報はすべて匿名化され、個人が特定されることはありません。また、研究発表が公表される場合でも個人が特定されることはありません。

・試料・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報や病理組織などの試料は原則としてこの研究のために使用し結果を発表したあとは、京都府立医科大学大学院呼吸器外科学教室 教授 井上匡美の責任の下、研究終了報告日から5年又は研究結果の最終公表日から3年又は論文等の発表から10年のいずれか遅い日まで保存し、その後適切に廃棄します。保存した試料・情報を用いて将来新たな研究を行う際は、貴重な試料や情報として前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用させていただきたいと思えます。新たな研究を行う際にはあらかじめその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

・研究組織

研究責任者

京都府立医科大学 呼吸器外科学 下村 雅律

お問い合わせ先

ご希望があれば、個人情報の保護及び本研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧することができます。その場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、2023年3月31日までに下記連絡先までご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお上記までに申し出がなかった場合には、参加を了承していただいたものとさせていただきます。

連絡先

京都府立医科大学呼吸器外科

職・氏名 教授・井上 匡美 電話:075-251-5023